

成績分析からみた大学教育の研究(3)：入学類型と全学共通科目の学業成績との関係を中心に

大江 篤志

1. 課題と方法

(1)目的

教育機関としての大学が維持し、存続していくための必須の要件の一つが学生の確保にあることはいうまでもあるまい。学生の確保は一般に入学試験という選抜を主要な手段としているが、これは基本的になんらかの意味において「質の高い」学生の獲得を意図してなされているものであろう。しかし、より根本的には一定程度の学生数の確保の要請にもとづいていることもまた否定できない。つまり大学は、質の高い学生を確保したいとの要求をもちつつも、一定程度の学生数を確保しなければならない。この2つの条件が相反しなければ、すなわち質の高い多数の学生が確保できれば、少なくとも大学が自らの存続について大きな問題や危機感を抱くことはないであろう。

この2つの条件の充足そのものは個々の大学内部の問題であるかもしれない。しかしこの充足は大学が相互に関与しておこなうゲームに似た社会的性格をも有しているのもまた事実であろう。大学は他大学との関係でのみ、より質の高い多数の学生を確保するほかはないからである。しかも18歳人口の減少過程においては大学のゲーム戦略が熾烈化しており、私立大学はもとより、現在では国立大学でさえも自校をアピールするために高等学校、受験生、高校生にたいして積極的に宣伝広報活動をするようになってきている。

これとともに、学生の募集や選抜の方法が多様化している。入学試験も試験科目の教科や数において様々になっている。推薦入試の内容も多岐にわたり、最近ではアドミッションズ・オフィス方式、いわゆるAO入試が多くの大学でまたたくまに採用されてきている。

選抜方法の多様化とは、大学に入学してくる学生の入学類型の多様化にほかならず、入学類型が多様化すればするほど、大学は多様な質の学生を抱えこまざるをえまい。これは「質の高い」多数の学生の確保という命題の一つの帰結であるといつてよい。そしてこれは大学における教育の内容と水準、方法などに直接間接に関わる問題ともなろう。現在、大学入学生の学力の低下が社会問題化し、補習教育などにより対処している大学が少なく

ないが、そもそも選抜方法の多様化は個々の大学の教育の問題なのである。

いくつかの異なる入試類型を経由して入学した大学生を、在学生在を構成する学生カテゴリーとしてとらえたとき、原則として集団教育を前提とする大学において、これらの学生カテゴリーははたして一定程度の均質性を有しているか否か、あるいはどの程度まで均質といえるかという問題に直面せざるをえない。これが本稿の基本的な課題関心である。この均質性の指標としては大学教育への準備体制と程度、学業態度、入学後の学生生活の目標、卒業後への将来展望などが考えられるが、本稿では学生が受講した科目にたいして担当教員がおこなう評価、一般にいうところの成績（以下、「学業成績」とする）を用いることにする。学業成績は大学での教育過程におけるもっとも重要な指標となると考えるからである。ここで上述した課題関心は「入学類型によって在学中の学業成績が異なっているか否か」と操作される。本稿の目的は入学類型による学業成績の相違の有無と程度とを明らかにすることにある。

前回の報告においても上記の問題を取り上げ、本学5学部の1996年度入学－1999年度卒業生のうち、工学部を除く4学部について分析した¹。しかしこの分析対象学生は1学年に限られており、入学類型によっては該当学生数が少ないこと、工学部学生を分析対象に組み込む必要があることなどの問題が残されることになった。また分析対象とした学業成績は原則として学生が受講し定期試験を受けたすべての科目にわたっていた。これ自体はかならずしも問題となるとはいえないものの、考慮すべきいくつかの問題が残る。

1つは学生が受講する科目が多岐にわたっており、しかも学生間で受講科目が異なっているために、学生の学業成績がはたして入学類型と関係しているのか、あるいは受講した科目の性格に関係しているのかが明確ではなくなるという点である。

もう1つは担当教員の学業成績を判断する際の評価基準の問題である。学業成績は受験学生の試験にたいする解答と、それを見て採点する教員側の評価基準の関数であるとする、学業成績の評価を教員がいかなる基準でおこなっているかという問題は避けてとおることのできない課題となるであろう。ところが学生が受講したすべての科目の成績から教員の評価基準を探るには極めて煩瑣な手続きが求められることになる。

¹ 大江篤志, 辻秀人, 山崎和郎, 白井培嗣, 後藤隆夫, 岩谷信, 櫻井研三, 水谷修 2002 成績分析からみた大学教育の研究(2): 入学類型と学業成績の関係 東北学院大学教育研究所報告集, 第2集, 1-51.

これらの問題を考慮して、今回は以下の作業方針を設定し、入学類型と学業成績との関係を見ていくことにした。

- ①学部，卒業年度について分析対象学生数を拡大すること。
- ②分析対象とする学業成績を全学部の学生が共通に受講する科目に限定すること。
- ③上記①，②について入学類型と学業成績との関係を分析すること。

なお，上述した担当科目教員間の評価基準の偏差の問題は本報告のテーマからそれるので，別稿にゆずることとする。

(2)方法

①分析対象とする学生

今回の報告における分析対象とする学生は1999（平成11）年度～2001（平成13）年度に本学を卒業した文学部，経済学部，法学部，工学部，教養学部の全学生である。したがってかならずしも入学年度は一定していないが，1996（平成8）年度～1998（平成10）年度入学の学生がほとんどを占めている。なお以下において二部（夜間部）を関係学部から分離して二部の学科としてとりあつかっている。また教養学部は1学科3専攻であるが，以下においては専攻を「学科」として扱っている。

【図1】は3ヶ年度の5学部15学科²の卒業学生数を男女別にあらわしたものである。これらの学生総数は8,802人（男子5,793人，女子3,009人）であった。学科別にみると，もっとも多いのが経済学科（1,852人），もっとも少ないのがキリスト教学科（7人）である。

学生総数を15学科で除した場合，約587人である。これをこえる学科は経済学科，法律学科（1,108人），英文学科（1,040人），商学科（938人），二部経済学科（825人），および史学科（697人）の6学科である。他の9学科はこれを下まわる。すなわち土木工学科（423人），電気工学科（396人），機械工学科（391人），応用物理学科（265人），人間科学専攻（262人），言語科学専攻（254人），情報科学専攻（218人），二部英文学科（126人），キリスト教学科である。

² いくつかの学科・専攻が2001（平成13）～2002（平成14）年度にかけて学科名称を変更している。本稿の対称学生はすべて学科名称変更以前に入学しているので，学科・専攻は変更前のものを使用している。参考のために旧学科（新学科）名称を以下に揚げておく。
商学科（経営学科）；言語科学専攻（言語文化専攻）；機械工学科（機械創成工学科）；電気工学科（電気情報工学科）
応用物理学科（物理情報工学科）；土木工学科（環境土木工学科）

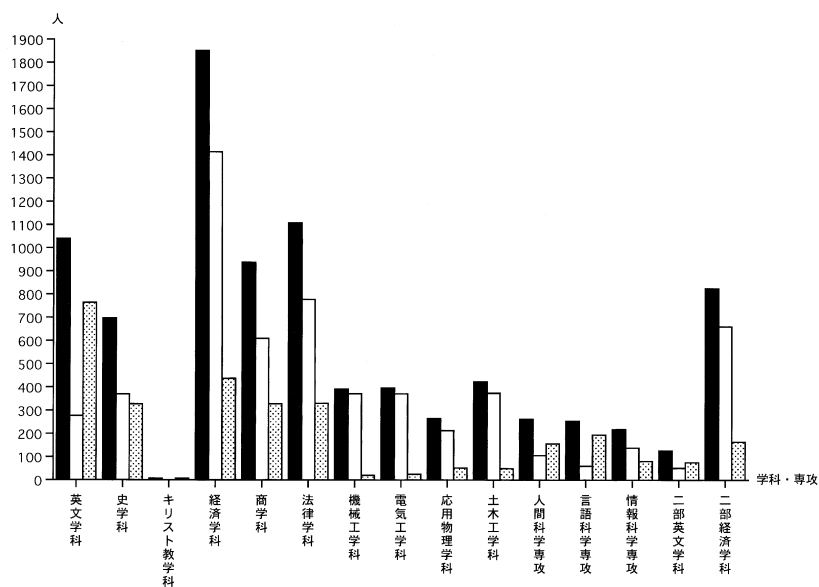


図1 学科別対象者数

■ 総数 □ 男子 ▨ 女子

また15学科のうち女子が男子よりも多いのは英文学科，人間科学専攻，言語科学専攻，二部英文学科，キリスト教学科の5学科であった。

②入学類型

個々の対象学生の入学類型は本学入試センター保管の資料を用いた。

分析対象となった学生の主要な入学類型は多様であるとともに，学科固有の類型もある。これらのうち主要なものは学力による入学試験，推薦入試，本学と同一法人経営の2つの高校からの入学であるが，この他に編入学，二部社会人特別入試などがある。

分析にあたっては，以下の15カテゴリーを用いている。

A. 入学試験

前期入学試験4 カテゴリー；正規合格，一次補欠合格（以下，「前期一次補欠」とする），二次補欠，三次補欠。

後期入学試験2 カテゴリー；正規合格（以下「後期正規」とする），正規補欠合格（以下「後期補欠」とする）。

B. 推薦入学5 カテゴリー；学業推薦（このうち職業高校からの推薦入学を「職業高校」として分類する），スポーツ推薦，キリスト者推薦，資格取得による推薦（以下「資格取得」とする）。

C. 同一法人2 カテゴリー；A高校，B高校。

D. 特別入試1 カテゴリー；二部社会人特別入学試験（以下，「二部特別入試」とする）。

E. 編入学1 カテゴリー。

【図2】は，これら15カテゴリーの入学類型が全対象者に占める割合を整理したものである。

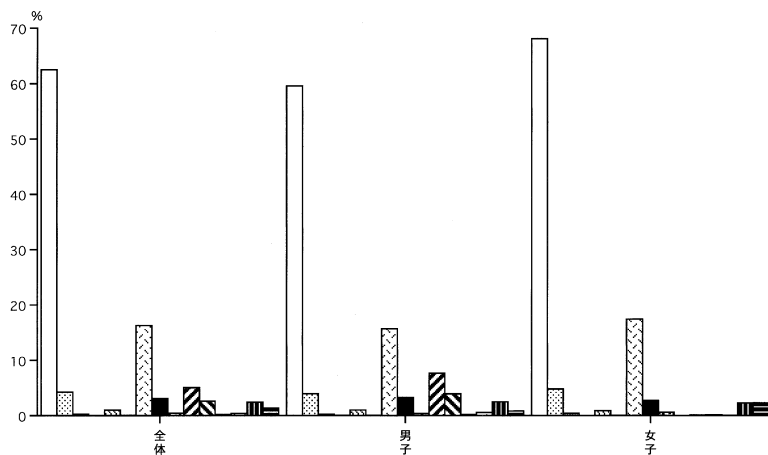


図2 対象者の入学類型別割合 (全体)

□ 前期正規 □ 前期一次補欠 □ 前期二次補欠 □ 前期三次補欠 □ 後期正規 □ 後期補欠
 □ 学業推薦 ■ スポーツ推薦 □ キリスト者推薦 ▨ A高校 ▩ B高校 □ 資格取得
 ▨ 職業高校 ▨ 二部特別 ▨ 編入学

これによると，対象者全体においてもっとも多いのが前期正規（62.5%）であり，学業推薦の16.3%がこれに次いで多い。A高校（5.1%），前期一次補欠（4.3%），スポーツ推薦（3.1%），B高校（2.6%），二部特別入試（2.4%），編入学（1.4%），後期正規（1.0%）の7カテゴリーは1～5%台を占めている。これにたいして前期二次補欠，前期三次補欠，後期補欠，キリスト者推薦，資格取得，職業高校の6カテゴリーは1%未満である。

男子全体を100とした場合，前期正規（59.6%），学業推薦（15.7%）の2カテゴリーが多く，これにA高校（7.7%），前期一次補欠（4.0%），B高校（3.9%），スポーツ推薦（3.3%），二部特別入試（2.5%），後期正規（1.0%）が続いている。前期二次補欠，前期三次補欠，後期補欠，キリスト者推薦，資格取得，職業高校，編入学の7カテゴリーは1%未満である。

女子においても男子と同様に前期正規（68.1%），学業推薦（17.4%）の占める割合が大きい。これに続いて前期一次補欠（4.8%），スポーツ推薦（2.8%），編入学（2.3%），二部

特別入試（2.3%）が比較的割合の大きなカテゴリーとなっている。前期二次補欠，後期正規，後期補欠，キリスト者推薦，B高校，資格取得，職業高校は1%未満であり，前期三次補欠，A高校の2カテゴリーに該当者はいなかった。

以上から女子は前期正規，学業推薦，編入学の割合が男子よりも高く，男子ではA高校とB高校の割合が女子よりも高くなっている。

なお入試類型には全学科に共通するものと特定の学科に片寄っているものがあり，対象者全体に占める割合が小さくとも，特定の学科において大きな割合を占めているものもあることに注意されたい。

③全学共通科目

今回の報告で対象とする学生が，学部・学科のいかんを問わず，共通に受講した科目は，キリスト教学関係の2科目であった。これらはそれぞれ1年次と3年次での履修科目であり，卒業要件となっている必修科目である。この2科目をX1，X2としておく。

この他にほぼ全学的に必修となっているのが外国語科目の英語系2科目である。「ほぼ全学的」というのは，今次対象学生の学科課程表では英文学科と二部英文学科の2学科では設置されていなかったからである。したがってこの2科目は全学共通科目とはいえないが，それに準ずる位置にあるといえるので，これらも分析の対象とすることにした。ここではこれら2科目をA1，A2としておく。A1は1年次配当の科目であるが，A2は学部によって若干異なっており，工学部4学科のみが2年次に配当されており，他の学科では1年次配当であった。

これら4科目はともにいわゆる教養科目である。以下においてはこれら4科目を便宜的に「全学共通科目」とみなして分析をおこなうことにする。

なおキリスト教学科の対象者はごく少数であるので，本稿の分析からは除外する。

④学業成績評価点

本報告の対象となっている大多数の学生にとり上記4科目は，必修科目であるから原則として全員が受講の登録をすることになり，最終的に試験を受ける。担当教員はその結果

等にもとづいて100点満点で学業成績を評価することになる。単位取得の合格条件は60点以上であり、60点未満は不合格である。本稿においては学業成績平均点は小数点第2位で四捨五入した数値を用いている。

2. 全学共通科目の学科別学業成績平均

(1)キリスト教学系科目 X1

キリスト教学系科目 X1の学業成績平均点を学科単位で見ると70.8～83.1の範囲に分布し、その差は12.3となった。学科をサンプルとした場合の15学科全体の平均点は76.8である。15学科のうち土木工学科（83.1）、キリスト教学科（81.0）、二部英文学科（80.9）の3学科では80点以上であり、15学科の上位の位置にある。これにたいして機械工学科（70.8）、商学科（72.5）、応用物理学科（73.1）は下位にある。他の9学科の平均は法律学科の73.8から電気工学科の79.7の範囲に分布している【図3】。

(2)キリスト教学系科目 X2

キリスト教学系科目 X2の学科別学業成績平均点は67.7～87.6に分布し、学科をサンプルとした場合の平均点は76.5である。15学科のうちキリスト教学科（87.6）、土木工学科（81.9）は上位群となり、機械工学科（67.7）、応用物理学科（67.8）は下位群となっている。他の11学科は73.2（情報科学専攻）から79.9（人間科学専攻）の範囲に分布している。最上位と最下位の差は20である【図3】。

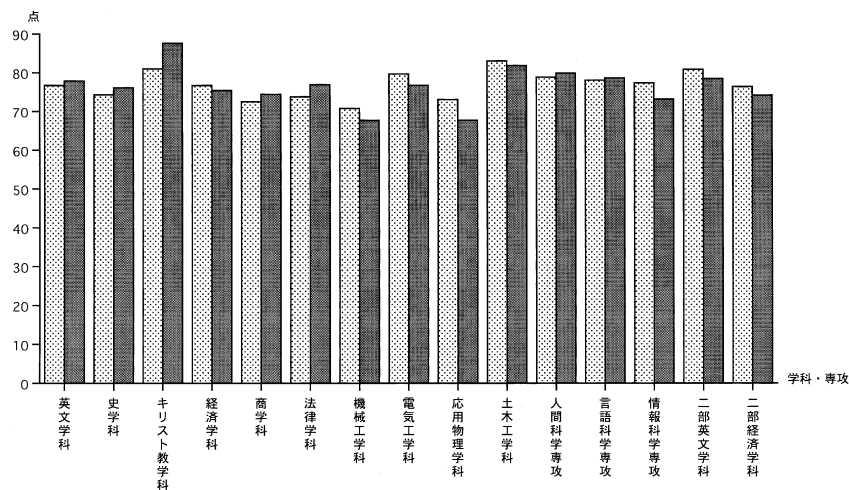


図3 キリスト教学系科目の学科別学業成績

■ X1 ■ X2

(3)英語系科目 A1

英文学科と二部英文学科をのぞく13学科の学科別平均点は64.4～81.4の範囲に分布し、その差は17である。学科をサンプルとした場合の学業成績平均点は74.3であった。13学科のうち人間科学専攻（81.4）、言語科学専攻（81.0）は上位群、土木工学科（64.4）、キリスト教学科（68.6）、応用物理学科（69.5）、機械工学科（69.8）は下位群を構成している。人間科学専攻と土木工学科との差は17.0であった。他の8学科は72.5（二部経済学科）～78.8（情報科学専攻）の範囲にある【図4】。

(4)英語系科目 A2

A2の13の学科別学業成績平均は65.9～81.7の範囲に分布する。学科ごとの平均点の全体平均は75.0であり、A1の74.3と大差はない。また人間科学専攻（81.7）、言語科学専攻（79.7）は上位群、応用物理学科（65.9）は下位群となっており、他の10学科は70.4（土木工学科）～78.5（史学科）の範囲にある。13学科の最高－最低の差は15.8であった【図4】。

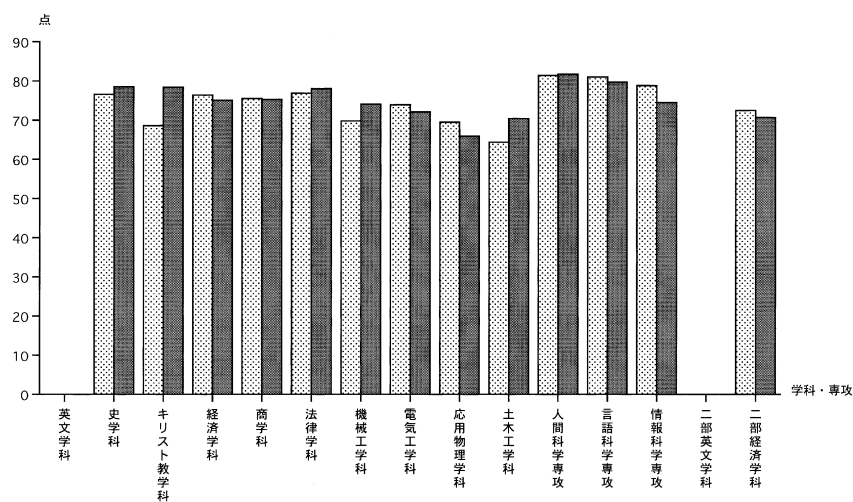


図4 英語系科目の学科別学業成績

■ A1 ■ A2

(5) 4科目の学業成績の関係

各学科の平均点をサンプルとしてX1とX2のピアソンの績率相関係数を求めたところ高い正の相関がみとめられた ($r=.785$, $p<.001$)。同様にA1とA2のあいだにもやや高い正の相関がみとめられた ($r=.656$, $p<.05$)。

しかしX1とA1, X1とA2, X2とA1, X2とA2それぞれのあいだには有意な相関はみられなかった。

3. 文学部

3-1 英文学科

英文学科における対象学生は前期正規, 前期一次補欠, 前期二次補欠, 学業推薦, キリスト者推薦, スポーツ推薦, A高校, B高校, 二部特別入試³, および編入学の10カテゴリーのいずれかに該当する。【図5】は英文学科対象学生の入学類型割合を学科全体, 男子, 女子に分けて整理したものである。

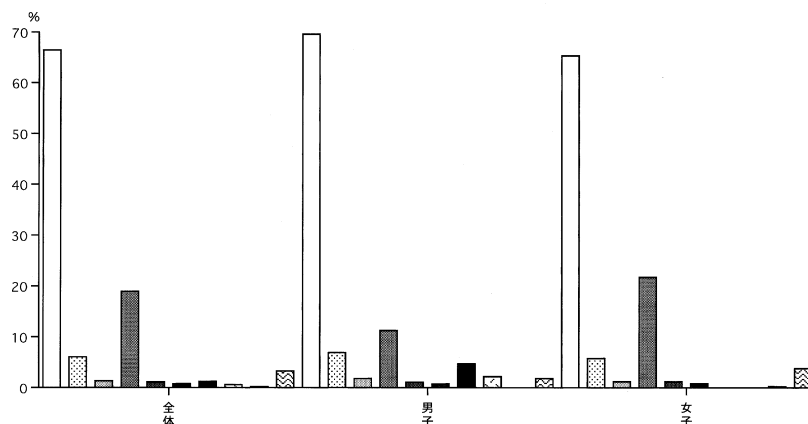


図5 対象者の入学類型別割合 (英文学科)

□ 前期正規 ▨ 前期一次補欠 ▩ 前期二次補欠 ■ 学業推薦 ■ スポーツ推薦
 ■ キリスト者推薦 ■ A高校 ▨ B高校 ▨ 二部特別 ▨ 編入学

学科全体としてみると, 前期正規が最多で英文学科対象学生1,040人の66.4%を占めている。これに次いで多いのが学業推薦 (18.9%), 前期一次補欠 (6.1%), 編入学 (3.3%) であり, 他の6カテゴリーは0.2~1.4%にすぎない。

³ 原則的に英文学科では二部特別入試を実施してはいない。しかし本稿における対象学生には二部特別入試によって二部に入学し, さらにそこから他の学科に転入学した事例がみられる。このような事例の場合, 最初に本学に入学した類型を使用していることを断っておく。

しかし入学類型の分布には男女差がある。男子276人では二部特別入試の категорияがなく、全体で9カテゴリーであり、このなかでも前期正規(69.6%)、学業推薦(11.2%)、前期一次補欠(6.9%)、A高校(4.7%)が相対的に多い。これら以外の5カテゴリーは0.7~2.2%と少ない。女子764人にとってはA高校とB高校の2カテゴリーを欠いており、全体で8カテゴリーとなる。このなかで前期正規(65.3%)、学業推薦(21.7%)、前期一次補欠(5.8%)、編入学(3.8%)が多く、他の4カテゴリーは0.3~1.2%にすぎない。

このように入学類型によっては対象学生が少ない場合もあり、成績の変動が大きくなる可能性が高いために、本報告では各カテゴリーの科目の受験者が10人以上の場合のみを取り上げることとする。この結果、英文学科では、男子の場合は前期正規、前期一次補欠、学業推薦、およびA高校の4カテゴリー、女子の場合は前期正規、前期一次補欠、学業推薦、および編入学の4カテゴリーとなった。

(1)キリスト教学系科目

①X1

学科全体の学業成績平均点は76.7であり、男子全体では73.0、女子全体では78.1である。ここから男子よりも女子の方の学業成績が5.1ポイントよい【図6】。

男子におけるX1の入学類型別学業成績平均は学業推薦(77.1)、前期正規(72.4)、A高校(72.1)、前期一次補欠(69.1)となり、最高の学業推薦と最低の前期一次補欠の差は8.0であった。

女子にとっては最高は男子と同様に学業推薦(78.6)であり、これに前期正規(78.2)、前期一次補欠(77.7)が次ぐが、これら3カテゴリーの差はごく小さい。例数が少ないという条件つきであるが、前期二次補欠は74.1であり、女子のなかでは低いものの、男子の前期正規よりも高くなっている。なお編入学の場合、1年次開講科目であるX1を受講した学生は僅少であるのでここでは取り上げていない。

男女に共通する前期正規、前期一次補欠、および学業推薦の3カテゴリーのいずれにおいても男子よりも女子の成績が高くなっている。

②X2

学科全体の平均は77.9、男子全体の平均は73.4、女子のそれは79.5であり、ここでも女

子の成績が男子よりも6.1ポイント高くなっている【図6】。

男子の入学類型別学業成績は前期一次補欠（78.7）、学業推薦（75.6）、前期正規（73.0）、A高校（69.8）となり、最高の前期一次補欠と最低のA高校との差は8.9であった。女子では前期一次補欠（80.4）、学業推薦（80.0）、前期正規（79.7）、編入学（73.1）の順に学業成績が高くなっており、最高－最低の差は7.3となるが、編入学を除く3カテゴリーの差は0.7にすぎない。

男女に共通する3つのカテゴリーのいずれにおいても女子の学業成績が男子のそれを上回っている。

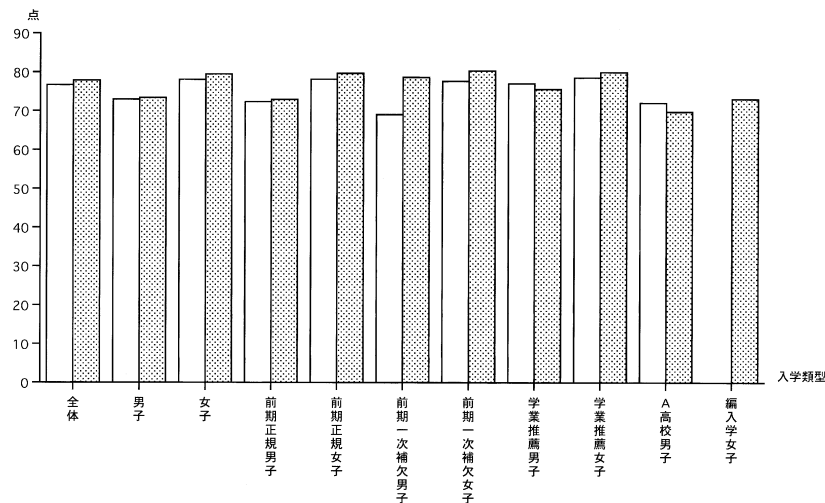


図6 キリスト教学系科目の入学類型別学業成績（英文学科）

□ x1 ▨ x2

3-2 史学科

史学科全体の対象者697人の入学類型は前期正規、前期一次補欠、前期二次補欠、学業推薦、スポーツ推薦、キリスト者推薦、A高校、B高校、および編入学の9カテゴリーであるが、女子ではA高校、B高校を欠く7カテゴリーである。

学科全体では前期正規（64.7%）、学業推薦（16.5%）、前期一次補欠（6.0%）、A高校（4.5%）、B高校（4.2%）がどちらかといえば学生数が多い。これら以外のカテゴリーでは0.6～1.7%にとどまっている【図7】。

男子370人の入学類型では前期正規（63.0%）、学業推薦（11.6%）、A高校（8.4%）、B高校（7.8%）、前期一次補欠（6.2%）が多く、他の4カテゴリーは0.3～1.6%にすぎない。

女子においても前期正規（66.7%）、学業推薦（22.0%）、前期一次補欠（5.8%）が多く、他の4カテゴリーは0.6～2.1%にとどまる。

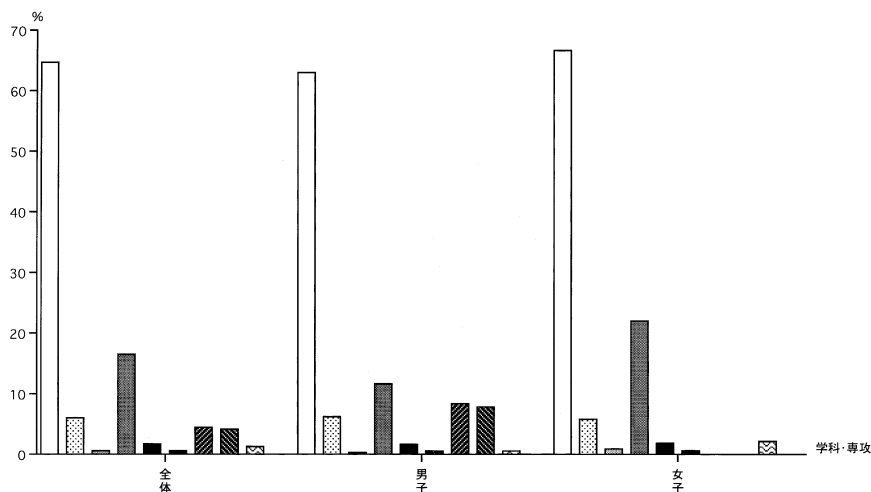


図7 対象者の入学類型別割合 (史学科)

□ 前期正規 ▨ 前期一次補欠 ▤ 前期二次補欠 ▦ 学業推薦 ■ スポーツ推薦
 ■ キリスト者推薦 ▩ A高校 ▧ B高校 ▩ 編入学

(1)キリスト教学系科目

①X1

史学科全体の学業成績平均点は74.3、男子は71.9、女子は77.1であり、女子が男子よりも5.2ポイント高い【図8】。

次に入学類型の主要なカテゴリーについて男女別に学業成績をみていく。男子では学業推薦（74.5）、前期一次補欠（73.3）、A高校（72.1）、前期正規（71.8）、B高校（70.2）の順に平均点が高いものの、学業推薦とB高校の差は4.3にすぎない。

女子では前期正規（77.8）、学業推薦（77.3）、前期一次補欠（70.4）となり、前期正規と学業推薦にはほとんど差はなく、これら2者と前期一次補欠の差が7.4～6.9と大きい。

入学類型が男女間に対応するカテゴリーは前期正規、前期一次補欠、学業推薦の3つであるが、前期一次補欠においてのみ男子の学業成績が女子のそれを上回っている。

なお少数ではあるが、スポーツ推薦が男女とも累積各7人が受講－受験していた。例数が少ないという問題があるが、男子は65.4、女子73.7であり、両者の差は8.3にもなる。

② X2

学科全体の学業成績平均点は76.1，男子は73.0，女子は79.7であり，女子が男子よりも6.7ポイント高い【図8】。

男子の場合，最高位は前期一次補欠であり，78.8であった。これにB高校（77.0），学業推薦（75.6），前期正規（72.3）が次ぐ。最下位はA高校の68.8であり，前期一次補欠との差は10.0に達する。

女子の最高位は前期一次補欠（84.1）であり，学業推薦（81.0），前期正規（79.5）の順になる。最高－最低の差は4.6であり，男子よりも幅は小さい。

男女間に対応のある入学カテゴリーは前期正規，前期一次補欠，学業推薦の3つであるが，いずれの場合も女子が男子を上回っている。

X1と同様にスポーツ推薦の累積受講－受験者は少ないが，男子は65.7，女子74.8と女子が9.1ポイント高い。しかし女子では主要3カテゴリーの平均とくらべると相対的に低いが，男子の前期正規，A高校よりも高い。

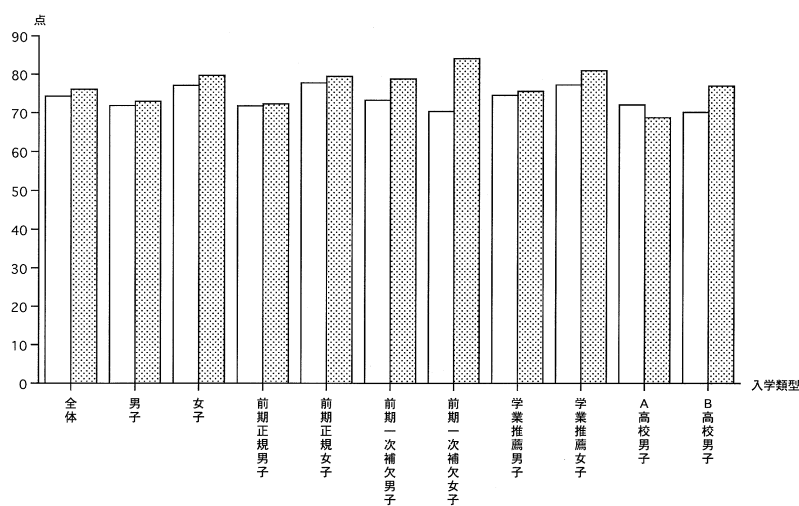


図8 キリスト教学系科目の入学類型別学業成績（史学科）

□ X1 ▨ X2

(1)英語系科目

① A1

史学科全体の学業成績平均点は76.6，男子74.1，女子79.6であり，女子が男子を5.5ポイント上回る【図9】。

男子の入学類型別の学業成績を高い順から並べると，前期正規（76.9），学業推薦（76.6），前期一次補欠（75.1），A高校（64.3），B高校（62.6）となり，最高－最低の差は14.3にもなる。また前三者と後二者の間に大きなギャップが認められ，同一法人からの2つの高校の学業成績は低いといえる。

同様に女子を入学類型別に学業成績の高い順に並べると，前期正規（80.3），学業推薦（79.7），前期一次補欠（76.5）となる。最高－最低の差は3.8であり，男子にくらべると入学類型による学業成績の差は小さい。

例数は少ないという条件つきで，ここでもスポーツ推薦を取り上げておくと，男子は57.8，女子は61.8である。男女とも他のカテゴリーにくらべると相当に低くなっているが，女子はA高校とB高校に比較的近い。

男女に共通の3カテゴリーのいずれにおいても女子の学業成績は男子を上回っている。

② A2

学科全体では78.5，男子では76.2，女子81.1となり，ここでも女子が男子よりも4.9ポイント高くなっている【図9】。

男子では前期一次補欠（79.7），学業推薦（77.3），前期正規（77.2）の3カテゴリーが上位に位置するのにたいし，A高校（73.4），B高校（70.1）の2カテゴリーは相対的に低位の群をなしている。しかしA1ほどには最高－最低の差は大きくないものの，9.6になる。

女子の場合，学業推薦（81.9），前期正規（81.3），前期一次補欠（80.8）となり，A1とくらべると順位の変動があるものの，最高－最低の差は1.1と僅少である。

参考のためにスポーツ推薦をみると，男子では70.2，女子71.3となり，男女ともにA1よりも学業成績平均点が上昇している。また男女ともにB高校と近似しているものの，他のカテゴリーと比較するとやはり相対的に低位にある。

男女に共通の3カテゴリーのいずれにおいても女子の学業成績は男子を上回っている。

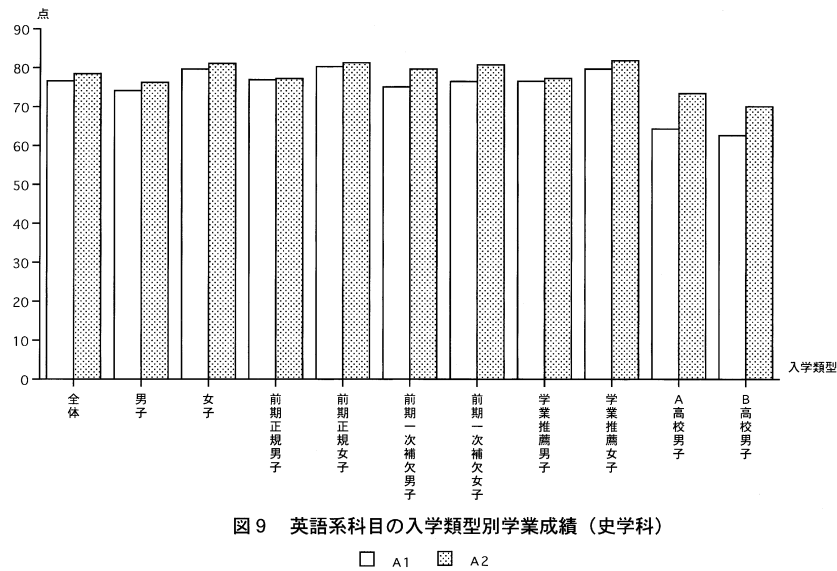


図9 英語系科目の入学類型別学業成績 (史学科)

□ A1 ▨ A2

4. 経済学部

4-1 経済学科

経済学科の分析対象者1,852人全体の入学類型は前期正規，前期一次補欠，前期二次補欠，学業推薦，スポーツ推薦，キリスト者推薦，A高校，B高校，二部特別入試および編入学の10カテゴリーであった。このうち男子では二部特別入試が，女子では前期二次補欠とA高校がない【図10】。

学科全体として相対的に多いのは前期正規（63.3%），学業推薦（11.3%），A高校（7.8%），前期一次補欠（6.8%），スポーツ推薦（5.6%），B高校（3.6%）であり，前期二次補欠（0.1%），二部特別入試（0.1%），キリスト者推薦（0.5%），編入学（0.9%）の4カテゴリーは1%に満たない。

男子1,414人の入学類型のうち分析対象学生が比較的多いのは前期正規（60.5%），学業推薦（11.4%），A高校（10.3%），前期一次補欠（6.0%），スポーツ推薦（5.8%），B高校（4.7%）の6カテゴリーである。編入学（0.8%），キリスト者推薦（0.7%），前期二次補欠（0.1%）は割合としては少ないが，他学科にくらべると対象学生数が多いので，実数もそれに応じて多くなっている。

女子438人では前期正規（73.0%），学業推薦（11.0%），前期一次補欠（9.4%），スポーツ推薦（5.0%），編入学（1.1%），キリスト者推薦（0.5%），B高校（0.2%），二部特別入試（0.2%）の順である。

男女とも他の学科に比しスポーツ推薦の割合が高い。

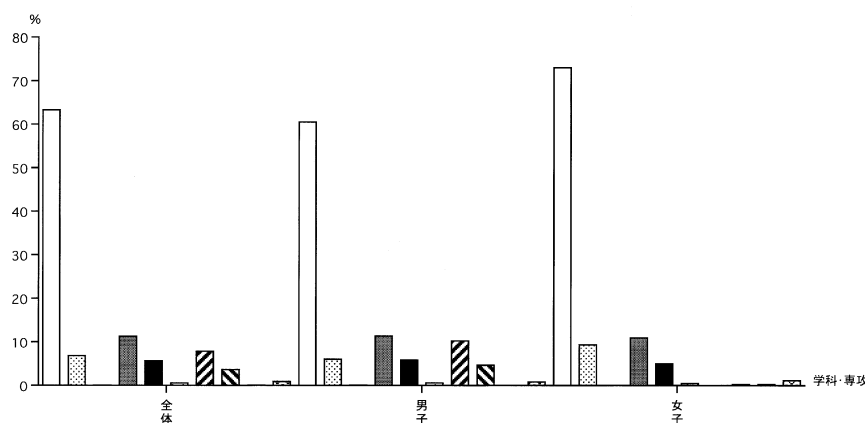


図10 対象者の入学類型別割合 (経済学科)

□ 前期正規 ▨ 前期一次補欠 ▤ 前期二次補欠 ▧ 学業推薦 ■ スポーツ推薦
 ▩ キリスト者推薦 ▦ A高校 ▥ B高校 ▨ 二部特別 □ 編入学

(1)キリスト教学系科目

① X1

経済学科全体としてのX1の学業成績平均は76.7であり、これを男女別にみると男子では75.6、女子は80.2となり、女子が男子を4.6ポイント上回っている【図11】。

男子の入学類型別の学業成績を主要6カテゴリーについてみると、学業推薦(77.9)、前期正規(76.3)、A高校(74.8)、前期一次補欠(73.9)、B高校(72.7)、スポーツ推薦(69.3)の順になり、学業推薦とスポーツ推薦の差は8.6であった。例数は少ないが、キリスト者推薦では74.2であり、A高校と前期一次補欠の中間的位置にある。

女子の主要4カテゴリーの場合、前期正規(80.9)、学業推薦(80.8)、前期一次補欠(78.3)、スポーツ推薦(75.3)となり、前期正規とスポーツ推薦の差は5.6である。女子スポーツ推薦は男子のA高校と前期一次補欠の中間的位置にある。

男女共通に主要なカテゴリーとなっているのは前期正規、前期一次補欠、学業推薦、スポーツ推薦の4つであるが、どのカテゴリーにおいても女子が男子を上回っている。そのなかで学業推薦の男女差は2.9と最少、最大はスポーツ推薦で6.0である。

② X2

学科全体の学業成績平均は75.4，男子74.3，女子78.9であり，女子が男子を4.6ポイント上回っている【図11】。

男子の主要6カテゴリーを学業成績の高かった順に並べると，編入学（79.3），学業推薦（75.4），B高校（75.1），前期正規（74.7），前期一次補欠（73.8），A高校（72.9），スポーツ推薦（70.7）となった。編入学とスポーツ推薦の差は9.0である。なお例数は多くないがキリスト教者推薦は71.1であり，スポーツ推薦と大きくは変わらない。

女子の主要4カテゴリーでは前期正規（79.5），学業推薦（79.0），前期一次補欠（78.7），スポーツ推薦（74.9）の順となった。最高－最低の差は4.6である。

男女共通の主要4カテゴリーのいずれにおいても女子の学業成績が男子を上回っており，その差は3.6（学業推薦）～4.9（前期一次補欠）の範囲に分布した。

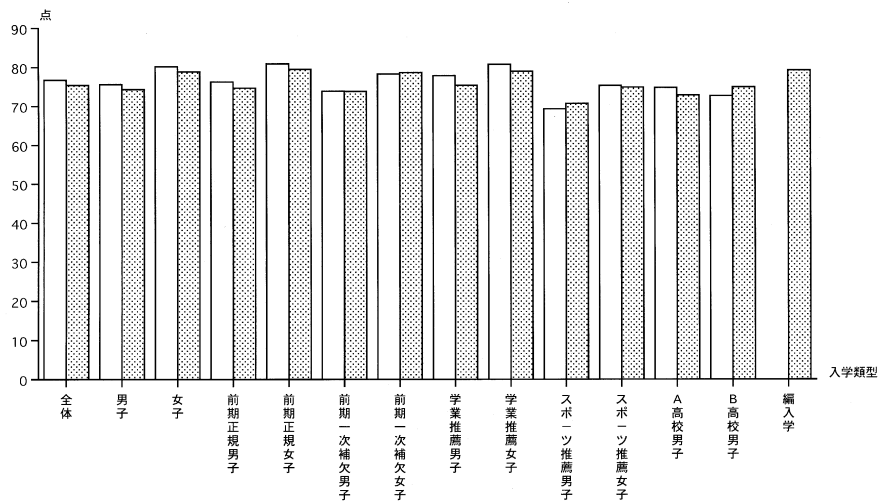


図11 キリスト教学系科目の入学類型別学業成績（経済学科）

□ X1 ▨ X2

(2)英語系科目

① A1

経済学科全体の学業成績平均は76.4，男子は75.0，女子は81.2であり，女子が男子を6.2ポイント上回っていた【図12】。

男子の主要6カテゴリーについてみると、学業推薦(77.9)、前期正規(77.0)、前期一次補欠(76.0)、B高校(74.1)、A高校(68.1)、スポーツ推薦(63.8)の順となり、とりわけ前4者とA高校、スポーツ推薦の2者との差が大きい。なお最高の学業推薦と最低のスポーツ推薦の差は14.1であった。例数が少ないという条件つきではあるが、キリスト者推薦は68.9であり、A高校と近似している。

女子では学業推薦(83.1)、前期一次補欠(82.3)、前期正規(81.8)の3カテゴリーでいずれも80点を超えているが、スポーツ推薦では67.8と低い。最高-最低の差は15.3に達した。

男女共通の4カテゴリーのいずれにおいても女子の学業成績が男子を上回っている。

②A2

学科全体の学業成績平均は75.1、男子73.5、女子80.3である。ここでも女子が男子を6.8ポイント上回っている【図12】。

男子主要6カテゴリーの学業成績の順位は前期正規(76.3)、学業推薦(75.6)、前期一次補欠(71.9)、B高校(67.0)、A高校(66.6)、スポーツ推薦(62.4)であった。最高の前期正規と最低のスポーツ推薦の差は13.9に及ぶ。これら6カテゴリーのうち前期正規と学業推薦は上位群を、B高校、A高校、スポーツ推薦は下位群をなしており、一次補欠は両群の中間的位置にある。なお例数は少ないがキリスト者推薦は69.1であり、一次補欠とB高校の間に位置している。

女子主要4カテゴリーの学業成績順位は前期一次補欠(82.3)、学業推薦(81.3)、前期正規(80.7)、スポーツ推薦(70.2)であった。前期一次補欠とスポーツ推薦の差は12.1となった。女子内部では上位3カテゴリーはいずれも80点を超えていることから、スポーツ推薦の学業成績は低いといわざるをえないものの、男女全体としてみると、女子のスポーツ推薦は男子のB高校、A高校、スポーツ推薦、キリスト者推薦を上回っており、男子の一次補欠に次ぐ成績となっている。

また男女共通の4つのカテゴリーのいずれにおいても女子が男子を上回り、その差は3.6(スポーツ推薦)~10.4(前期一次補欠)の範囲にわたっている。

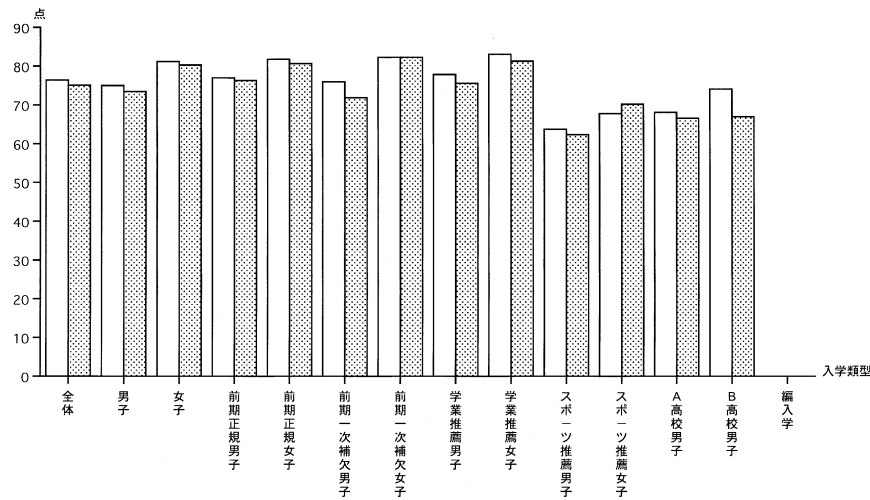


図12 英語系科目の入学類型別学業成績 (経済学科)

□ A1 ■ A2

4-2 商学科

商学科938人の入学類型は前期正規，前期一次補欠，前期二次補欠，学業推薦，スポーツ推薦，キリスト者推薦，A高校，B高校，資格取得，二部特別入試，編入学の11カテゴリーであった【図13】。

男子610人では前期正規（71.0%）が最も多く，これに学業推薦（6.6%），前期一次補欠（6.2%），スポーツ推薦（5.4%），A高校（4.8%）が次ぐ。B高校（2.5%），資格取得（2.0%），編入学（1.5%）は1～2%台である。前期二次補欠は1%に満たず，キリスト者推薦と二部特別入試はなかった。

女子328人でも前期正規（74.4%）が最多であり，学業推薦（11.9%）も多い。これに次ぐのがスポーツ推薦（5.2%），前期一次補欠（4.6%）である。資格取得（1.5%）と編入学（1.5%）は多くはない。キリスト者推薦，B高校，二部特別入試は僅少であり，前期二次補欠とA高校の2カテゴリーはない。

商学科では他の学科とくらべるとスポーツ推薦の比率が相対的に高く，経済学科と同じ傾向を示す。なお資格取得は商学科独自の入学類型である。

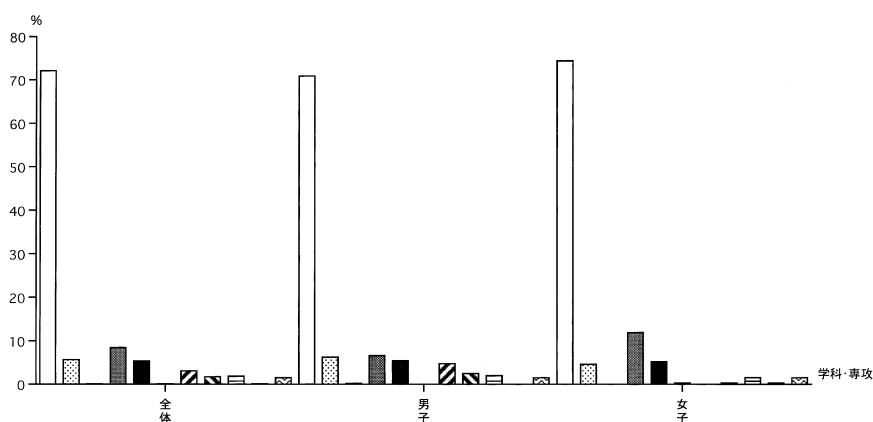


図13 対象者の入学類型別割合 (商学科)

□ 前期正規 ▨ 前期一次補欠 ▤ 前期二次補欠 ■ 学業推薦 ■ スポーツ推薦
 ▩ キリスト者推薦 ▧ A高校 ▦ B高校 □ 資格取得 ▨ 二部特別 ▩ 編入学

(1)キリスト教学系科目

① X1

商学科全体のX1の学業成績平均は72.5であった。男子全体の平均は70.5，女子のそれは76.3であり，女子が男子を5.8ポイント上回っている【図14】。

男子の場合，資格取得（77.1）が最高，スポーツ推薦（62.1）が最低であり，その差は15であった。このあいだに学業推薦（73.2），前期正規（70.9），前期一次補欠（70.1），B高校（70.1），A高校（69.2）が入り，学業推薦とA高校との差は4.0にすぎない。

女子では学業推薦（77.2），前期一次補欠（76.7），前期正規（76.2），スポーツ推薦（72.8）の順となるが，前3者のあいだにはほとんど差がない。またスポーツ推薦が最低であるものの，学業推薦との差は4.4にとどまるだけでなく，男子の学業推薦とも大きな差はない。なお例数が少ないという条件付きであるが，女子の資格取得は79.2であり，男子と同様に高位を占めている。

男女に共通するカテゴリーは資格取得を含めると5カテゴリーあるが，どのカテゴリーにおいても女子が男子を上回っている。その差は10.7（スポーツ推薦）～2.1（資格取得）の範囲にあり，男子スポーツ推薦の学業成績の低さが目をひく。

② X2

学科全体の学業成績平均は74.4，男子72.7，女子77.8であり，女子が男子を5.1ポイント上回っている【図14】。

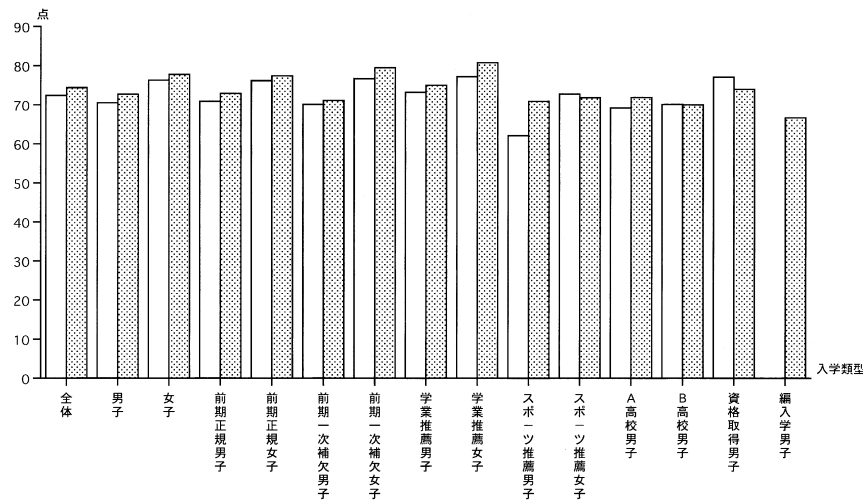


図14 キリスト教学系科目の入学類型別学業成績（商学科）

□ X1 ▨ X2

男子の学業成績の高い順に並べると、学業推薦（75.0）、資格取得（74.0）、前期正規（72.9）、A高校（71.9）、前期一次補欠（71.1）、スポーツ推薦（70.9）、B高校（70.0）となり、これら7カテゴリーの最高－最低の差は5.0である。編入学はこれらにくらべると66.7と低く、学業推薦との差も8.3になる。スポーツ推薦の学業成績がX1とくらべると上昇している点が注目される。

女子の場合、学業推薦（80.8）、前期一次補欠（79.5）、前期正規（77.4）の3カテゴリーの学業成績は近接しており、スポーツ推薦は71.8と女子のなかでは相対的に低い。しかし男子とくらべると前期正規、A高校、前期一次補欠と大差はない。例数が少ないものの、女子の資格取得は82.0、編入学は80.8と高い。

男女共通の入学類型は資格取得、編入学を加えると6カテゴリーとなるが、いずれにおいても女子が男子を上回っており、その差は0.9（スポーツ推薦）～14.1（編入学）の範囲にある。なお主要4カテゴリーでは同様に0.9（スポーツ推薦）～8.4（前期一次補欠）の範囲に分布する。

(2)英語系科目

① A1

商学科全体の学業成績平均は75.5であった。男子は72.9、女子は80.2であり、女子が男

子を7.3ポイント上回っている【図15】。

男子の入学類型別平均は、高い順から前期正規（75.7）、学業推薦（74.1）、前期一次補欠（71.9）、B高校（70.5）、資格取得（67.6）、A高校（61.3）、スポーツ推薦（54.1）である。前期正規と学業成績はほぼ横並びで上位群を構成しているのにたいし、A高校とスポーツ推薦は下位群となっており、前期一次補欠、B高校、資格取得はほぼ中間的位置にある。前期正規とスポーツ推薦の差は21.6であった。

女子の場合、学業推薦（84.4）が最上位にあり、前期正規（80.7）がこれに次ぐ。前期一次補欠でも77.2であるから、男子の最上位の前期正規を上回っている。スポーツ推薦は65.2と女子のなかでは最低であり、学業推薦との差は19.2であった。しかし男子とくらべると資格取得に次ぎ、A高校よりも上位にある。また例数は少ないが女子の資格取得は78.2であった。

資格取得も含めると男女に共通の入学類型は5カテゴリーあるが、どの場合でも女子が男子を上回っており、その差は5.0（前期正規）～11.1（スポーツ推薦）の範囲に分布する。

② A2

学科全体の学業成績平均は75.3、男子72.2、女子81.3であり、女子が男子を9.1ポイント上回っている【図15】。

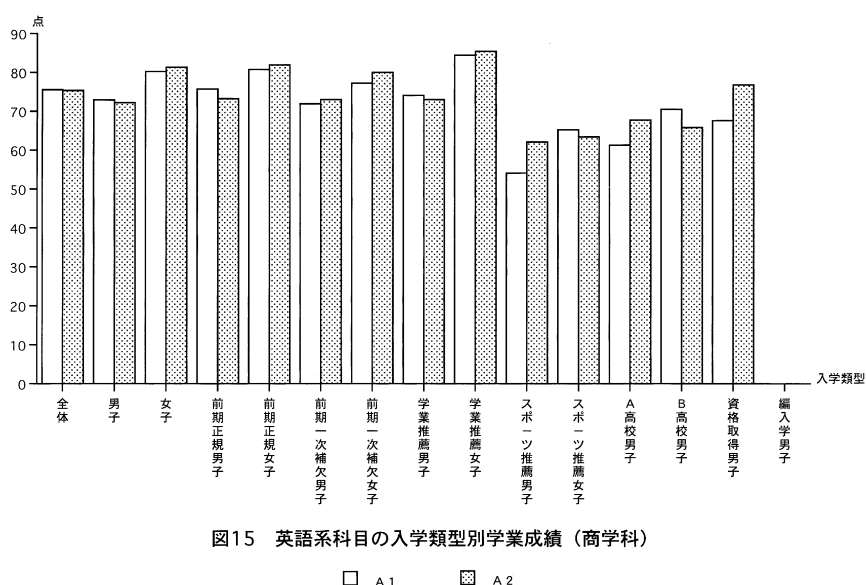


図15 英語系科目の入学類型別学業成績（商学科）

□ A1 ■ A2

男子では資格取得（76.8）が最高位であり，前期正規（73.2），前期一次補欠（73.0），学業推薦（73.0）がこれに次ぐ。これら4カテゴリー間の差は3.8であった。これにたいしA高校（67.7），B高校（65.8），スポーツ推薦（62.1）は低位にある。資格取得とスポーツ推薦の差は14.7であった。

女子の場合，学業推薦（85.4），前期正規（81.9），前期一次補欠（80.0）の3カテゴリーはいずれも80点以上となっている。スポーツ推薦はこれらにくらべるとかなり低く63.4であり，学業推薦との差は21.0である。

男女共通のカテゴリーのどの場合でも女子の学業成績が男子よりも高く，その差は資格取得（0.2）とスポーツ推薦（1.3）ではごく小さく，学業推薦では12.4と大きい。

5. 法学部法律学科

法律学科の対象学生1,108人は前期正規，前期一次補欠，後期正規，学業推薦，スポーツ推薦，キリスト者推薦，A高校，B高校，編入学のいずれかのカテゴリーに該当する。このうち女子はA高校と編入学の2カテゴリーを欠く【図16】。

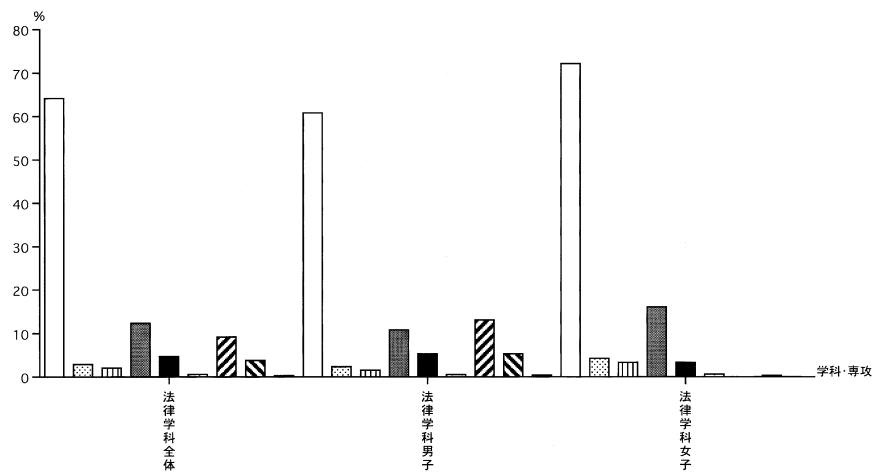


図16 対象者の入学類型別割合 (法律学科)

□ 前期正規 ▨ 前期一次補欠 ▤ 後期正規 ▧ 学業推薦 ■ スポーツ推薦
 ▩ キリスト者推薦 ▦ A高校 ▥ B高校 ▪ 編入学

男子778人の入学類型で多いのは前期正規（60.8%）であるが，A高校（13.1%），学業推薦（10.8%）の2カテゴリーはそれぞれ男子全体の1割以上となっている。またスポーツ推薦とB高校も少なくはなく，5.3%を占めている。これらにくらべると前期一次補欠

(2.3%)，後期正規(1.5%)は少ない。キリスト者推薦(0.5%)，編入学(0.4%)は1%を下回る。

女子330人にあっても前期正規(72.1%)がもっとも多く，学業推薦(16.1%)がこれに次ぐ。前期一次補欠は4.2%，後期正規とスポーツ推薦は3.3%であった。キリスト者推薦とB高校は1%に満たない。

(1)キリスト教学系科目

①X1

法律学科全体の学業成績平均は73.8であった。男子全体の平均は72.3，女子全体では77.3であり，女子が男子を5ポイント上回っている【図17】。

男子の場合，学業推薦(74.9)を筆頭にして，前期一次補欠(74.2)，A高校(73.6)，前期正規(72.1)，B高校(71.3)，後期正規(70.5)が続く。これら6カテゴリー間の最高-最低の差は4.4であり，いずれも近接した位置にあるといえよう。これにたいしてスポーツ推薦は67.3と低位にある。

女子にあっても学業推薦(80.4)と前期一次補欠(78.0)，後期正規(77.2)，前期正規(77.1)の4カテゴリーは大差なく近接している。これらにくらべるとスポーツ推薦は65.0と相当に低く，学業推薦との差は15.4であった。

男女に共通する入学類型は5カテゴリーであるが，これらのうちスポーツ推薦のみが男子が女子を上回っている。他の4カテゴリーではいずれも女子が男子を上回る。なお男女の差は2.3(スポーツ推薦)～6.7(後期正規)の範囲内に分布する。

②X2

学科全体の学業成績平均は76.9であり，男子全体では75.6，女子全体は79.7であった。ここでも女子が男子を4.1ポイント上回っている【図17】。

男子では後期正規(77.2)，前期正規(76.2)，A高校(75.2)，学業推薦(75.0)，スポーツ推薦(74.7)，B高校(73.8)，前期一次補欠(73.0)の順となるが，最高と最低の差は4.2と小さい。

女子の場合，後期正規(83.5)，学業推薦(81.1)，前期正規(79.9)の3カテゴリーが上位群をなす。これにたいしてスポーツ推薦(76.0)と前期一次補欠(73.4)は相対的に

低く、後期正規と前期一次補欠との差は10.1となる。しかし女子のスポーツ推薦は男子の前期正規とほぼ同じレベルにあり、学科全体としてみればけっして低いとはいえない。

男女に共通する5つのカテゴリーのいずれにおいても女子は男子を上回り、その差は0.4（前期一次補欠）～6.3（後期正規）であった。

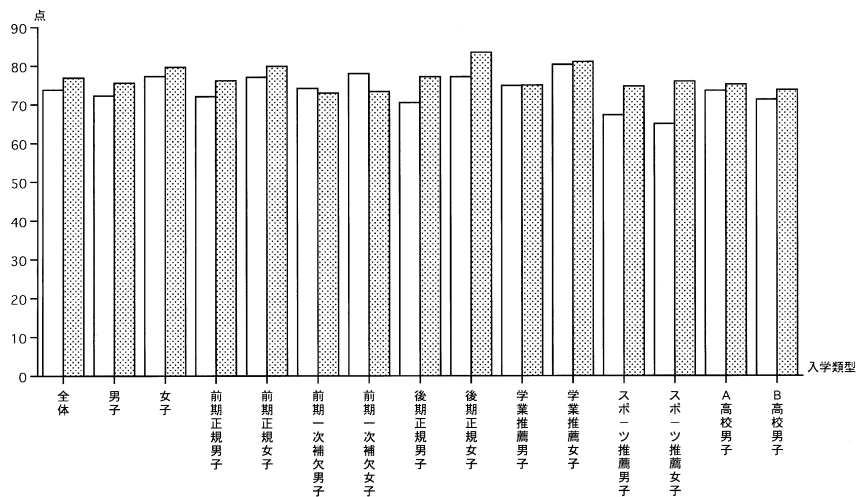


図17 キリスト教学系科目の入学類型別学業成績（法律学科）

□ x1 ▨ x2

(2)英語系科目

① A1

法律学科全体の学業成績平均は76.9であった。男子全体としては75.1，女子全体では81.0であり，女子が男子を5.9ポイント上回っている【図18】。

男子の最高は学業推薦（77.1），最低はスポーツ推薦（65.3）であり，その差は11.8である。これら以外の5カテゴリーはむしろ学業推薦に近接しており，後期正規（76.6），前期正規（76.2），前期一次補欠（74.6），A高校（73.7），B高校（72.4）となった。学業推薦とB高校との差は4.7であり，B高校とスポーツ推薦との差は7.1である。

女子においても男子と類似の傾向がみられ，学業推薦（82.7），前期正規（81.4），後期正規（81.4），前期一次補欠（80.4）の4つのカテゴリー間の差は2.3にとどまる。これにくらべるとスポーツ推薦は66.5とかなり低くなっている。

男女に共通する5カテゴリーのどれにおいても女子の学業成績が男子のそれを上回って

おり、その差は1.2（スポーツ推薦）～5.8（前期一次補欠）であった。

② A2

学科全体の学業成績平均は78.0，男子は76.2，女子は82.3であり，女子が男子を6.1ポイント上回っている【図18】。

男子では後期正規（78.4）と前期正規（78.3）を筆頭に，学業推薦（76.5），A高校（74.9）と続く。これら4カテゴリーとくらべるとB高校（71.7）と前期一次補欠（70.2）はやや低いが，スポーツ推薦は63.6と一層低くなっている。後期正規とスポーツ推薦の差は14.8であった。

女子の場合，学業推薦（85.0），後期正規（83.7），前期正規（82.9）の3カテゴリーが僅差で並ぶ。これらにくらべると前期一次補欠（73.6）とスポーツ推薦（69.7）はかなり低い。

男女共通の5カテゴリーのいずれにおいても女子は男子よりも学業成績平均が高く，その差は3.4（前期一次補欠）～8.5（学業推薦）であった。

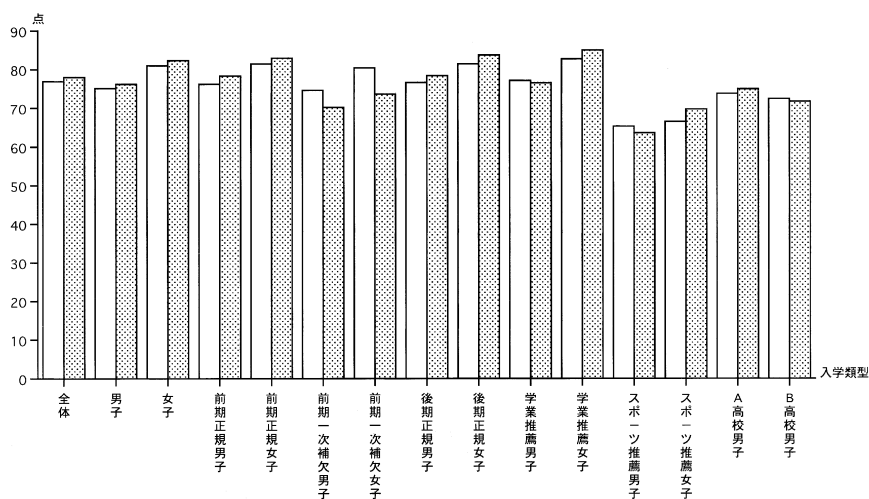


図18 英語系科目の入学類型別学業成績（法律学科）

□ A1 ▨ A2

6. 工学部

6-1 機械工学科

機械工学科の全対象者は391人である。対象学生の入学類型は前期正規，前期一次補欠，前期二次補欠，後期正規，学業推薦，スポーツ推薦，キリスト者推薦，A高校，B高校，

職業高校，編入学の11カテゴリーである【図19】。

男子371人では前期正規（41.5%），学業推薦（41.2%）が多い。その他に比較的多いものとして後期正規（4.6%），A高校（3.8%），前期一次補欠（3.2%），B高校（2.2%），職業高校（2.2%）をあげることができる。これ以外の前期二次補欠，スポーツ推薦，キリスト者推薦，編入学は1%に満たないし，実数も1～2人にすぎない。

女子は20人であった。入学類型は前期正規（45.0%），学業推薦（30.0%），後期正規（25.0%）の3カテゴリーしかなく，しかも各カテゴリーの実数はいずれも10人に達していない。

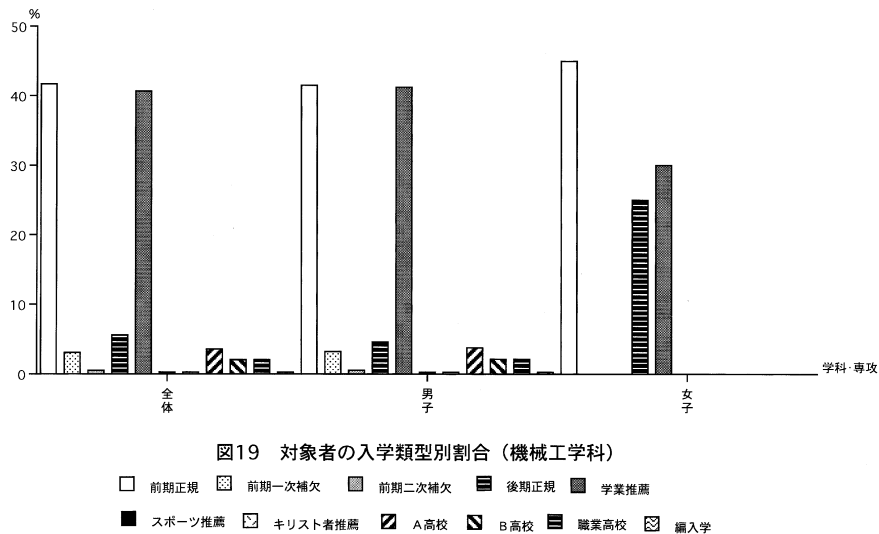


図19 対象者の入学類型別割合（機械工学科）

□ 前期正規 ▨ 前期一次補欠 ▩ 前期二次補欠 ▤ 後期正規 ■ 学業推薦
 ■ スポーツ推薦 □ キリスト者推薦 ▨ A高校 ▩ B高校 ▤ 職業高校 □ 編入学

(1)キリスト教学系科目

① X1

機械工学科全体の学業成績平均は70.8であった。男子全体としては70.7，女子全体では72.6であり，女子が男子を1.9ポイントだけ上回っている【図20】。

男子の場合，学業推薦の71.2から前期一次補欠の66.1の範囲に分布し，両者の差は5.1である。この間に前期正規（70.4），A高校（69.9），後期正規（68.0）が入る。学業推薦とこれらの3カテゴリーの差はごく小さいために，前期一次補欠が相対的に低位になっている。なお例数は少ないという条件つきではあるが，職業高校（77.8）とB高校（74.0）は上記5カテゴリーにくらべると平均点が高くなっている。

女子にあつては受講—受験者実数は5～8人と少ない。したがって参考程度にとどまるが、前期正規が74.6、学業推薦が72.0、後期正規が70.0であり、対応する男子よりも上回っている。

② X2

学科全体の学業成績平均は67.7、男子67.5、女子72.2であり、女子が男子を4.7ポイント上回っている【図20】。

男子の平均点の高い順に並べると、A高校(72.5)、後期正規(70.0)、前期正規(67.2)、学業推薦(67.0)、前期一次補欠(63.5)となりA高校と前期一次補欠の差は9.0であった。例数は少ないが、B高校は74.5であり、職業高校は64.8であった。

また女子の場合も例数が少ないという条件つきであるが、学業推薦は75.3、前期正規が74.8、後期正規が63.8となり、後期正規が低い。

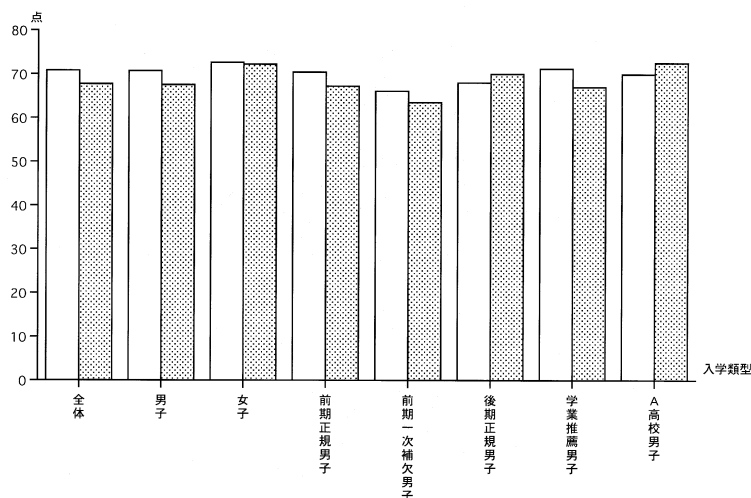


図20 キリスト教学系科目の入学類型別学業成績 (機械工学科)

□ X1 ▨ X2

(2)英語系科目

① A1

機械工学科全体の学業成績平均は69.8、男子全体のそれは70.1、女子全体は64.1であり、男子が女子を6ポイント上回っている【図21】。

男子においては前期正規が71.0と最高であるものの、最低の後期正規も67.5であり、最

高一最低の差は3.5にすぎない。このあいだに学業推薦（69.5），前期一次補欠（69.3），A高校（68.8）が入る。例数が少ないが，B高校は75.1と学科内部では高く，職業高校（71.9）は標準的である。

女子では例数の少なさが問題として残るが，前期正規(76.5)が高く，学業推薦（65.4）がこれに次ぐものの，相当に低い。さらに後期正規は48.6であり，女子全体の平均点を低下させる結果となっている。

② A2

学科全体の学業成績平均は74.1，男子74.0，女子75.9であり，女子が男子を1.9ポイント上回っている【図21】。

男子では後期正規（77.3），前期正規（76.1），A高校（75.5）が相対的に上位を占めている。これにたいし前期一次補欠（72.3），学業推薦（71.1）はやや低い。例数は少ないが職業高校（80.5）とB高校（80.4）は上の5カテゴリーよりも高い。

女子では，例数がやはり少ないが，前期正規（86.0）が高い。また学業推薦も75.1と男子とくらべても高位にあるが，後期正規は65.1とA1と同様に低位にある。

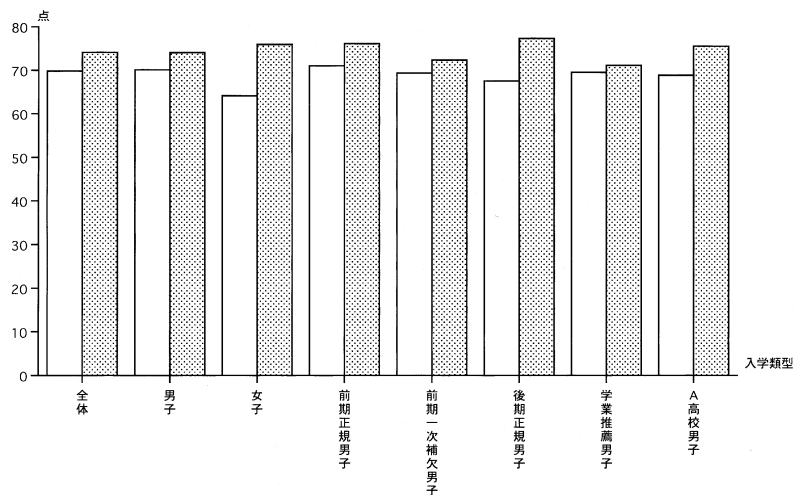


図21 英語系科目の入学類型別学業成績（機械工学科）

□ A1 ▨ A2

6-2 電気工学科

電気工学科の全対象者数は396人である。これらの対象者は前期正規，前期一次補欠，前期二次補欠，後期正規，後期補欠，学業推薦，スポーツ推薦，キリスト者推薦，A高校，

B高校、職業高校、編入学の12カテゴリーのいずれかに該当する【図22】。

男子は371人であった。男子では編入学を欠く11カテゴリーであるが、このうち前期正規（39.1%）と学業推薦（38.8%）が突出しており、しかも両者はほぼ同じ割合となっている。これら2カテゴリー以外ではA高校（7.5%）、B高校（4.6%）、後期正規（3.5%）、職業高校（2.4%）、前期一次補欠（2.4%）が相対的に多い。これにたいし前期二次補欠、後期補欠、スポーツ推薦、キリスト者推薦の4カテゴリーは1%に満たない。

女子25人では学業推薦（44.0%）、前期正規（28.0%）、後期正規（12.0%）、前期一次補欠（4.0%）、後期補欠（4.0%）、B高校（4.0%）、編入学（4.0%）の7カテゴリーであった。実数が少ないために学業推薦以外の6カテゴリーでは10人に達していない。

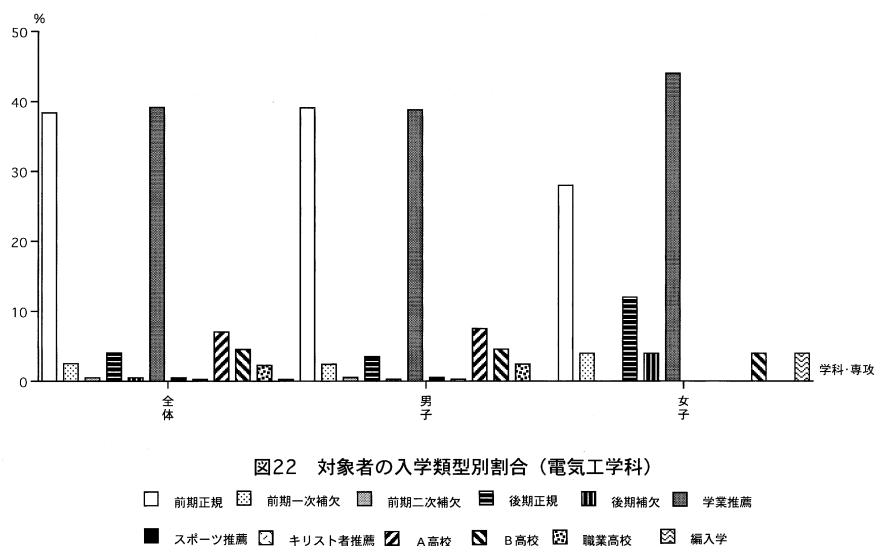


図22 対象者の入学類型別割合（電気工学科）

□ 前期正規 ▨ 前期一次補欠 ▩ 前期二次補欠 ▪ 後期正規 ▫ 後期補欠 ▬ 学業推薦
 ■ スポーツ推薦 ▧ キリスト者推薦 ▦ A高校 ▥ B高校 ▤ 職業高校 ▣ 編入学

(1)キリスト教学系科目

① X1

電気工学科全体の学業成績平均は79.7であった。男子のそれは79.5，女子は81.6であり，2.1ポイントと僅差ながら女子が男子を上回っている【図23】。

男子の入学類型別学業成績をみると，B高校（85.6）が最上位であり，学業推薦（80.8），A高校（80.0）がこれに次いで高い。前期正規（78.1）と後期正規（76.1）は男子平均を下回っている。B高校と後期正規の差は9.5であった。例数はやや少ないが職業高校は76.7であり，前期正規と後期正規の中間的位置にある。

女子の場合、10人以上が受講－受験したカテゴリーは学業推薦のみであり、学業成績平均は82.7であり、男子の学業推薦をやや上回っている。

② X2

学科全体の学業成績平均は76.8、男子76.5、女子80.2であり、女子が男子を3.7ポイントだけ上回っていた【図23】。

男子では後期正規（83.9）、A高校（79.3）、B高校（77.2）、学業推薦（76.0）、前期正規（75.7）の順に学業成績が高く、後期正規と前期正規との差は8.2であった。例数が少ないという条件つきであるが、職業高校は82.1であり、後期正規とほぼ同じ水準にある。また前期一次補欠は73.6にとどまり前期正規よりも低い。

女子の場合、学業推薦が79.9であり、ほぼA高校なみとなっている。例数は少ないが前期正規は76.6であり、男子の学業推薦と近似している。

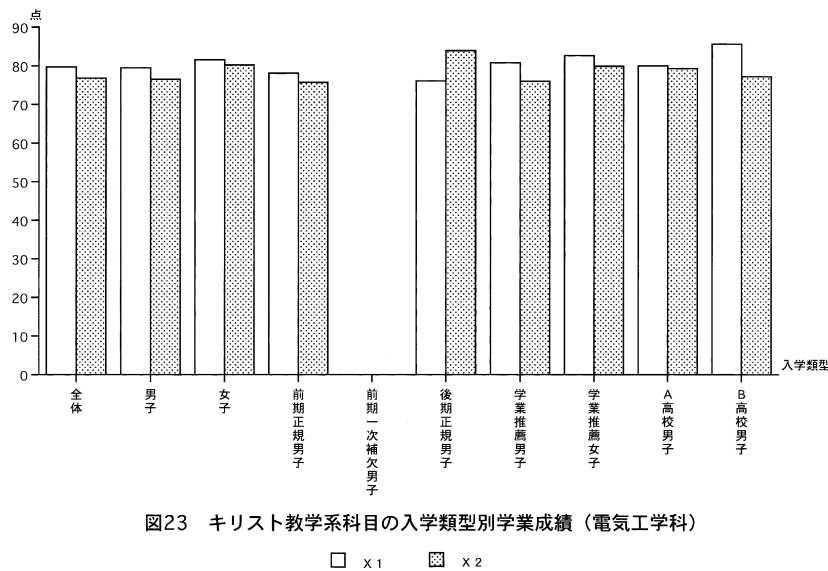


図23 キリスト教学系科目の入学類型別学業成績（電気工学科）

□ X1 ▨ X2

(2)英語系科目

① A1

電気工学科全体の学業成績平均は73.9、男子は73.4、女子は82.0であり、女子が男子を8.6ポイント上回っていた【図24】。

男子の場合、最高位にあったのが後期正規であり84.1であった。これにA高校（79.6）が続いている。これらにくらべるとB高校（74.2）、前期一次補欠（73.9）、前期正規